

子離れ, 10年をふり返り

池田容子

あいあい助産院(京都市)

鈴木郁美さん、御紹介ありがとうございました。娘の出産の時、こけし雛をプレゼントして下さったことが昨日のことのよう思い出されます。あれから10年です。はやいですね。あの時鈴木さんは独身でしたが、今は3人のお母さん。私も子だくさんと言いたいところです。が、この子ひとりです。

他ならぬ鈴木さんからの「りれ一随筆」のバトン、お受けすることにしました！

出産, この子に…

1981年3月2日、^{めぐみ}愛美は生まれました。私は夫に「この子は神さまからの授かりものよ。この子がいい人とめぐり逢い結婚する時は温かく送り出しましょうね」と話しました。子供は親の所有物ではなく、人格を持った人間であることをお互いに確認しておきたかったのです。そして私は母として、へその緒を切った時から子離れがはじまることを心に刻み、もしこの子が道をはずれたととしても理解し、受け入れてやれる母親になろうと決心したのです。

愛, 何をしてあげられるの

産休明け、仕事開始！ 私は娘に2つのことは必ずしてやろうと思いました。1つは、母乳で育てること。もう1つは「大好き」と言ってやること。そうすることで、無意識の中に満足感を与えてやりたかったのです。授乳の1年間、娘は笑顔を振りまいてくれました。私は今でもたびたびその頃を思い出し、楽しかった思

い出に浸るのです。そして娘に「あなたは目を輝かせ、本当に嬉しそうに生き生きとお母さんの母乳をのんでいたのよ」と話して聞かせます。娘は大喜びです。

もう1つの「大好きよ」というのは、側で聞いている人にはとても滑稽だったと思います。なぜなら何もわからない赤ちゃんの時から、たびたび大きな声で「大好きよ」と呼びかけていたからです。これは5年生になった今でも続いています。保育園の頃、「お迎えの時“大好きな愛美ちゃん”なんて言って来る人はあなたぐらいよ」と笑われたこともあります。私にとってはまったく自然な言葉でした。娘の心の中にこの言葉が根を張るように願っています。「母はいつもあなたのことを大切に思っています」娘の心の中が満たされれば、きっと優しい人になれるでしょうから……。

小学生, いま与えたいものは

娘は小学生になり大切な時期を迎えています。存分に甘えた満足感が、今度は記憶として残ってゆきます。この時期私は手術室で働いていました。毎日遅い帰宅です。子供は学童保育所から帰ると近所のお世話になりました。泊まらせて頂くこともたびたびでした。疲れはている私に余裕などありません。つまらないことでよく怒ったものです。

そんなある日、ついに娘は私に向かって「鬼ばばあ」と言ったのです。かつて聞いたことのない言葉でした。その目には憎しみがこもって



いました。「ああ、このままの生活ではいけない！」これを機に、病院勤務を辞める決心をしました。娘にとって一番大切な時、誰よりも私を必要としているもののために時間を作ろうと思ったのです。3年生の夏でした。

●「お母さん、ただいま！」はちきれんばかりの笑顔で帰ってきます。今までの分を取り戻すかのように抱っこしてと甘えます。「お母さん大好きよ」とくりかえし、学校のことへと話が続きます。私もにこにこ話を聞きます。ゆっくりとした時が流れます。3、4年生になると自ら思考するようになってきます。親を見る。聞いてもらいたい。この親子の会話と触れ合いによっていろいろなものの見方、考え方、生き方の基礎ができるように思います。

私は母として上からではなく、娘と同じ立場で見、感じようと思いました。私のぐうたらさも、どじさもみんな出すのです。娘は喜び、私は見えないものが見えてきました。そして折り●に触れ母として伝えたいこと、生き方、思いやり、父親について、人を愛すること、信仰のことなどを話すのです。それは砂に染み込む水のように、娘の心の中に入ってゆきました。

食を伝えたい

小学生の間に子離れの80%はしておこうと思っています。5、6年の間に自分で料理が作れるようにしてやりたいと思います。というのも、この間から今の若いお母さんの驚くばかりの食生活を聞いているからです。タマネギ、ジ

ャガイモの皮を剥くのが面倒、煮物、フライ物は買ってくる。出前、外食はあたり前、それにほかほか弁当、これが毎日のことなのです。それも専業主婦の人たちがこうなのです。食文化の崩壊です。隔離されて育てられたサルのように、現代の女性も母性を知らずに育ってきています。ますます育児は混乱してゆくでしょう。

食生活は最低限生きるために必要です。添加物、農薬が無制限に入っている今の時代に、良い物を選んでいかなければ必ず健康に影響を与えます。料理を作って食べる楽しさ、大切さを娘に伝えたいのです。もちろん女性として自立していくことも大切ですが、家庭において目立たないお母さんの役割がどんなに大切かを知ってもらいたいのです。

4月の私の誕生日に娘から本をプレゼントされました。その中に「これからいつも明るい元気なお母さんでいて下さいね」と書かれてありました。お母さんの顔がにこにこ顔になったと娘は言います。そしてその顔にも笑顔があふれていました。思春期に入ればまた変化してくると思いますが、小学生の間のことを糧に乗り越えてほしいと願っています。今度はじっと見守ります。私は少しずつ仕事をはじめました。ゆっくりと時を楽しみたいので働きすぎないようにと思いつつ……。

* * *

次回は、聖霊病院で一緒に働いた元気なお母さん、とても繊細で家庭を大切に、産婦さんに優しい家城絹代さんにバトンタッチします。